

B-14 衣服寸法の計り方に関する研究

鹿児島県立短大 茅野 艶子

1. 平面作図により胴の原型を作成する場合、個々の体型に容易に合って補正の個所が少ないことが望ましいので、なるべく詳細に的確に採寸することが必要である。そのために、比較的採寸誤差の生じやすい頸付根囲寸法と、補正度の大きな背肩部の計測を容易に、合理的にするために実験を試みた。

2. 頸付根囲寸法の採寸と、肩線の傾斜度および背肩部の寸法を計測しやすいように、市販のテープメジャーに手を加えて専用のメジャーを作り、それによって採寸した寸法に基づいて婦人服の胴の原型を作成し、着用実験を行なった。

3. 頸付根の位置に合った曲線にメジャーが自然に落ち着きやすいので、正しい頸付根囲寸法を採寸しやすい。頸椎点の直下と背肩幅線の交点において背肩幅線下りを計測するので、肩線の傾斜度と背肩部の体型に即した作図ができて補正度も非常に少なく、好結果が得られた。